

アラスカ便り



第5回

アメリカでは、長さの単位がインチ(in)やフィート(ft)、マイル(mi)など、液量の単位がオンス(oz)やガロン(gal)などといったように、日本では普段使用しない度量衡が日常的に使われている。それは温度についても然り。日本では「気温0度」と言えば普通は摂氏0度(0°C)を指すが、アメリカで「0 degrees」は華氏0度(0°F)である。華氏(F)と摂氏(C)の間には、 $F = (9/5)C + 32$ の関係がある。

日本に居ると華氏による温度表示を目にすることはまず無い。はじめは少し戸惑った。アラスカに来たばかりの8月や9月はまだ暖かい日が多かったが、天気予報で予想気温が70度とか、フロリダで90度とか報道され一瞬驚いた。体調管理のためこちらで体温計を購入したが、自分の体温が97度と表示されても平熱なのかすぐに判断できなかった。

しかし、こちらで半年過ごしてみると、華氏の良さが少し分かった気がする。例えば、100°F というのは 37.8°C であり、大雑把に言えば体温が 100°F を超えれば「これは大変だ」と判断しやすい。また、0°F は -17.8°C であり、これは家庭用冷凍庫内の温度とほぼ同じである。私の経験上、0°F を下回ると露出した皮膚が痛みを感じるようになるので、服装選択の目安としている。華氏は摂氏に比べて、より人間の皮膚感覚に合った温度目盛りなのかもしれない。

2017年1月中旬に強い寒波が襲来し、1月18、19日にはフェアバンクスの気温が-40度を下回った(写真1)。ちなみに-40度は、摂氏と華氏の値が唯一等しい温度である。フェアバンクス市街には氷霧が発生していた(写真2)。日本ではなかなか経験できない寒さを体験でき非常に嬉しかったが、何度も経験したいという気にはならなかった。

フェアバンクスでは、毎年2月下旬~3月に氷の彫刻世界大会が開かれており、そのためか街中にも所々に小さな氷の彫刻を見かけるようになった(写真3)。また現在、ユーコンクエストと呼ばれる犬ぞりレースが開催中で、先週土曜日にカナダのホワイトホースを出発し、ゴールのフェアバンクスを目指している。極寒の季節でも様々なイベントを楽しむ現地の人々は逞しい。



写真1： 「-42°C」を表示した UAF 電光掲示板の前で。2017年1月18日撮影



写真2： 高台にある IARC からフェアバンクス市街を望むと、氷霧に覆われていた。2017年1月18日撮影



写真3： 某企業の入口に飾られていた氷の彫刻

2017年2月7日

渡来 靖 (環境システム学科)

